



東地中海地域ニュース

パレスチナ：ハニーヤ・ハマス「首相」とファイヤードPA首相の発言 (1月19日付アル・クドウス紙)

1. ハニーヤ・ハマス「首相」

- (1) 歴史的な勝利がパレスチナ国家樹立に向けた道のりを整えた。ガザ戦争のもたらした歴史的な瞬間は、パレスチナの団結と国民対話の成功に向けた好ましい環境をもたらした。
- (2) イスラエルは、ガザ地区から無条件に完全撤退し、すべての通行所を開放し、封鎖を解除すべきである。
- (3) (ハマス)内閣は、家屋を破壊され、又、被害にあったパレスチナ人家庭に対して緊急支援を提供するとともに、復興に努力する。ドーハでの「ガザに関する首脳会議」及びリヤドでのGCC首脳会議を評価するとともに、クウェイトでのアラブ経済首脳会議がガザへの支援を提供することを願っている。イスラエルの攻撃停止に向けたエジプト、トルコ、カタール、シリアの努力を評価する。

2. ファイヤードPA首相

- (1) イスラム(原理主義)の思想では、1967年ボーダーに国家を建設するというアイデアはなく、2004年にガザからの一方的撤退が議論されるようになって以来、イスラエルは、PLOに代表されるパレスチナの代表性に打撃を与えようとしてきた。今こそ新しいコンセス内閣をつくる時である。新内閣は、20~25名から構成され、この困難な移行時期において分裂の解消に努める。
- (2) ガザの被害は、1948年に続く第二次ナクバというべきものである。アラブ諸国及び国際社会と積極的に努力していきたい。だが、これはPAの枠組みを通じて行われるべきであり、それこそがパレスチナの分裂を終わらせる努力が必要な理由の一つである。我々は、緊急人道支援と復興支援及び復興支援の管理を分けているが、いつまで我々が建設し、イスラエルが破壊するということが続き、いつまでイスラエルが破壊するものに国際社会はお金を出すのであろうか。
- (3) ガザ地区が問題となっている時に、どうしてラファハ通行所といった狭い限定された事柄にのみ焦点を置くのであろうか。検討すべきことは、ラファハ通行所の将来に限定するべきでなく、例えば、西岸とガザを結ぶ回廊など、本質的な課題が複数にある。

(4) 個人的には、現在のイスラエル政府及び近い将来に出来るであろうイスラエル政府が、パレスチナが受け入れることのできる最低限(の和平達成案)を示すことはあり得ないと考えている。純粹にメカニズムに関する点から言えば、現在、イスラエルと交渉する可能性は存在していない。より良い機会が生じた際に、これまでと同様の方法で、我々の立場を示していく。かかる機会が来るまで、我々は、オン・ザ・グラウンドで努力していく。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799